

卒業生からのメッセージ



看護師 金城 永子
県立病院勤務 2期生

私は沖縄県立看護大学を卒業後、県立病院に就職しました。臨床現場では、さまざまな健康上の問題を抱えている患者さんや家族と関わります。その関わりをとおして多くの学びや葛藤があります。日々、自分の実践した看護を振り返り、より質の高い看護を実践するためにはどうしたらいいのか考えながら研鑽を積んでいます。看護師の仕事は身体的・精神的にハードな部分もありますが、「あなたのおかげで元気になった。ありがとう。」と患者さんや家族から声をかけられた時、看護師になって本当に良かったと心から思います。これからも、患者さんや家族に寄り添った看護が実践できるように頑張ります。

沖縄県立看護大学は、私にとって看護の専門職者としての知識・技術・態度を修得するうえでとても恵まれた環境でした。経験豊かな先生方から科学的根拠に基づいた看護実践の重要性を学ぶことができました。また、講義・演習・実習では学生同士のグループディスカッションの時間が多かったため、自分の考えをまとめて相手に伝える能力を向上させることができました。臨床現場において、質の高い医療を提供するためには他職種間の連携は重要であり、看護師の立場から意見を求められる機会も多いです。大学での学びや経験は、私にとって大きな糧となっています。



保健師 屋宜 一馬
市保健所勤務 12期生

平成25年3月に沖縄県立看護大学を卒業し、4月から那覇市役所の保健師として勤務しています。大学入学当初より、医療費の増大や生活習慣病の増加等の問題に対して関心があり、病気の予防に携わる仕事がしたいと思っていました。大学で勉強するなかで保健師業務を知り、地域住民の疾病の予防、健康の維持・向上に携わることができる保健師になりたいと強く思うようになりました。そして念願の市役所保健師となり現在働いています。勤務し始めて強く思うのが、日々学ばねばならないということです。大学では基礎的な教育を受けますが、職場では現場に即した知識が必要になります。教科書の内容は知っていてもそれをどう現場で活用し、実践するのかという具体的な知識が求められます。それを一緒に働いているプリセプターや先輩から教えていただいたり、実践する姿を見ながら学ばせてもらっています。まだ保健師1年目で未熟なところも多いので仕事の中でつまづくことも多々あります。そういうときは同期や先輩に相談したり、自分で勉強したりしながら乗り越えています。保健師の業務は、生活習慣病予防だけではなく精神保健福祉や母子保健、高齢者介護等多岐に渡ります。現在いる部署で一生懸命仕事をしながら乳幼児から高齢者まで地域住民全員を支援できるように成長していきたいです。これから看護職を目指すみなさん、頑張ってください。そして保健師になったら一緒に協力連携して地域をよりよくしていきましょう。



助産師 塚本 暁子
診療所勤務 1期生

沖縄県立看護大学を卒業し早11年の歳月が経ちました。現在は糸満市にある産婦人科クリニックで助産師として勤務しています。

私は学生の頃より女性のライフサイクルと健康に興味を持ち、私自身も女性であることから、女性を支援する仕事をしたいと考えていました。助産師として、周産期にある多くの女性とその家族に関わる中で、新しいライフステージの段階へと進む時のケアの重要性を実感しています。女性の健康を守ることは、その家族の健康を守ることにつながるからです。

最近では、後輩の教育や学生の実習を担当する機会も多く、後進を育てることの難しさと楽しさを感じる日々を送っています。

卒業後私は長く臨床で勤めていますが、今も改めて思うことは、私自身の看護観は大学時代に学び経験したことを基礎に、臨床で働く中でさらに学び発展してきているということです。沖縄県立看護大学の先生方の教え、実習で出会った患者さまやスタッフのみならずから学び得たものは大きく、今の私の助産師としての根幹となっています。

大学は学び方を勉強する場所です。沖縄県立看護大学には学ぶのに素晴らしい環境と機会が数多くあります。これから4年間の時間を大切に過ごし、夢と希望、高い志を持った看護職者としてスタートラインに立ってください。



養護教諭 奥間 美香
公立学校勤務 6期生

私は現在、特別支援学校の養護教諭として勤務しています。沖縄県立看護大学を卒業して今の学校で3校目になります。初めての勤務校は大規模な高等学校、2校目は全校児童14名の僻地にある小さな小学校で働いてきました。

実際に勤務してみると、自分が想像していた以上に職務が多様で、勤務地や学校の規模、校種によっても違ってきます。初めは戸惑うことが多くありましたが、時にはカウンセラー的役割を担ったり、時には害虫駆除を行い、衛生管理に徹したり、時には保健指導をしたりと様々な顔を持つのが養護教諭なのだと感じました。また、現在勤務している特別支援学校では、学校生活を過ごす中で医療的なケアを必要とする児童生徒が多く在籍しているため、教職員に対して医学的な知識を伝えることも養護教諭の一つの役割となっています。

私は大学時代に様々な事を経験し、たくさんの人と関わり、意見交換をしてきました。その経験があり、現在、教職員や関係機関と連携・協力しながら子ども達の健康と安全を支えることが出来ていると感じています。

大学の限られた時間の中ですが、多くの人と出会い、自分自身を成長させ、目標に向かって頑張ってください。

平成25年度卒業生(12期生)の就職・進学状況

● 就職		1.県内	2.県外	合計
		46 (64.8%)	25 (35.2%)	
1. 看護師	国公立	32	2	34
	その他	8	21	29
	計	40	23	63
2. 保健師	国公立	2	2	2
	その他	2	2	4
	計	2	2	4
3. 助産師	国公立	3	3	3
	その他	3	3	3
	計	3	3	3
4. 養護教諭	国公立			
	その他			
	計			
5. 未定	国公立			
	その他			
	計			
6. その他	国公立	1		1
	その他			
	計	1		1
● 7. 進学	国公立	2	2	2
	その他		1	1
	計	2	1	3
● 8. 未定・未確認		-	-	1
	合計			75

(卒業予定者75名) 単位:人 平成26年3月28日現在

○主な就職先など

- 卒業予定者75名**
- ◆ 進学 (3名)
 - 沖縄県立看護大学別科助産専攻(2)、昭和大学助産師課程(1)
 - ◆ 就職 (71名)
 - 県内 (46名)
 - 沖縄県立病院(16)、琉球大学医学部付属病院(14)、沖縄赤十字病院(8)、国立病院機構 琉球病院(2)、オリブ山病院(2)、那覇市立病院(1)、沖縄協同病院(1)、沖縄県国民健康保険団体連合会(1)、豊見城市役所(1)
 - 県外 (25名)
 - 筑波メディカルセンター病院(2)、鎌ヶ谷総合病院(3)、千葉中央メディカルセンター(1)、新松戸中央総合病院(1)、イムス三芳総合病院(1)、昭和大学病院(1)、横浜南共済病院(2)、大和市立病院(1)、横浜旭中央総合病院(1)、木沢記念病院(1)、第二岡本総合病院(1)、東住吉森本病院(2)、多根総合病院(1)、吹田病院(1)、石切生喜病院(1)、大阪府三島救命救急センター(1)、神戸市立医療センター(1)、飯塚病院(1)、佐世保市立総合病院(2)

平成26年3月28日現在